

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか回遊促進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	まちなか回遊促進事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	まちか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	なし	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	R6	実施方法	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		期間	終了年度	R7	事業分類	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					イベント等開催事業	
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかを巡るイベントを開催することで、中心市街地及び地域市街地の回遊を促進するとともに各店舗のPRを図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地及び地域市街地の来訪者が増加し、出店者同士の交流が促進され、人の交流が盛んな商業地域となる	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		スタンブラーの応募者	人				100	40
		参加店舗数	店				20	20

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	夜の回遊スタンブラーを市内イルミネーションに併せて実施。 期間：令和6年10月25日～令和7年2月14日	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		業務委託発注回数	回	0	0	1		
		事業費計	千円	0	0	764		
		一般財源	千円			764		
		特定財源（国・県・他）	千円			0		
		（うち受益者負担）	千円			0		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	店舗の周知を図り、にぎわいのある商業地域となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		スタンブラーの応募者	人	0	0	20	値が大きいほど良い	効果が上がった
		参加店舗数	店	0	0	21	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	店舗の周知を図り、にぎわいのある商業地域となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		スタンブラーの応募者	人	0	0	20	値が大きいほど良い	効果が上がった
		参加店舗数	店	0	0	21	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
		効果が上がった指標数		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
		効果は変わらない指標数		費用は下がった				
		効果が下がった指標数		費用の増減無し				
		指標全体		費用が増加した	○			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は佐野市内各地で行われる夜のイベントとの連携を図り、イベントの計画を行ったが、スタンブラー応募者数が目標を下回った。参加者から、夜に限らず昼の時間も開催してほしいとの声があるため、令和7年度はこれらを踏まえ検討していきたい。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
回遊が図られるよう、実施されたアンケートを基にイベント内容を再検討し実施していく。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか活性化推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	まちなか活性化推進事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H28	実施方法	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり	中心市街地活性化に関する法律 地域おこし協力隊推進要綱 佐野市地域おこし協力隊員設置要綱	終了年度	—	直営	事業分類	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					その他市民に対する事業	
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかにぎわい創出等業務委託をさのまちづくり(株)へ発注し、空き店舗実態調査及び相談業務、SNSによるまちなか情報の発信等を実施し、まちなかの賑わい創出を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	人流・店舗が増えることで、中心市街地の賑わいを創出する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	4,300	4,400	4,500	4,600	4,700
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・まちなかにおける空店舗等について実態を把握し、「まちなか居住」「商業活性化」促進のための施策を推進する基礎資料作成（空店舗調査・相談業務、SNSまちなか情報発信等） ・歩行者通行量調査	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		業務委託実施件数	件	4	2	3	
		事業費計	千円	7,168	4,158	3,946	
		一般財源	千円	7,168	4,158	3,946	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	中心市街地の歩行者通行量（平日）は前年を下回る結果となる。しかし、同時期に行なった休日の歩行者通行量調査では、前年を上回る結果を得る。このことから、調査日（平日）に小雨が降ったことが影響しているものの、人の交流がさかんな商業地域となっているといえる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	5,125	5,675	4,858	値が大きいほど良い効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
		○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

まちなか活性化に関する協議会設立に向け準備を行っているが、令和7年度に関しては年度内設立を目指しスケジュールを明確にする必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
まちづくり（株）との連携強化を図り、スケジュールを明確にする。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか活性化推進協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部産業政策課	予算中事業名	予算 款 項	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	まちなか活性化推進協議会		7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	支援事業		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等 中心市街地の活性化に関する法律	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		開始年度	H20	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市の中心市街地を活性化するために策定した「佐野市中心市街地活性化基本計画」を推進するため、民間による推進協議会を発足し、交付金を交付することにより運営支援を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地の現状を把握し、民間主導で活性化に向けた検討を行い、中心市街地の活性化を推進する	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	4300	4400	4500	4600	4700
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり(株)）を3回開催。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		協議会開催回数	回数	0	0	0		
		事業費計	千円	0	0	0		
		一般財源	千円					
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	中心市街地の歩行者通行量（平日）は前年を下回る結果となる。しかし、同時期に行なった休日の歩行者通行量調査では、前年を上回る結果を得る。このことから、調査日（平日）に小雨が降ったことが影響しているものの、人の交流がさかんな商業地域となっているといえる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	5125	5675	4858	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	中心市街地の歩行者通行量（平日）は前年を下回る結果となる。しかし、同時期に行なった休日の歩行者通行量調査では、前年を上回る結果を得る。このことから、調査日（平日）に小雨が降ったことが影響しているものの、人の交流がさかんな商業地域となっているといえる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	5125	5675	4858	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	効果（R6とR5の指標値増減）	※ 10万円以上の増減により判断			効果
		効果が上がった指標数	1指標		
		効果は変わらない指標数	0指標		
		効果が下がった指標数	1指標		
		指標全体	効果は変わらない		

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった	費用の増減無し	費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

さのまちづくり(株)は令和7年度中の協議会設立を目指して準備を進めており、第2次中心市街地活性化基本計画の進捗管理にも大きく影響するため、緊密な連携を取る必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
令和7年度においても、さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり(株)）に参画。 協議会設立時期を注視し、設立後の運営補助金等の予算を検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	中心市街地活性化基本計画推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	3-①	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部産業政策課	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	中心市街地活性化基本計画推進事業		7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	根拠法令、条例等		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	中心市街地の活性化に関する法律	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業 期間	開始年度 終了年度	H27 -	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり					
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					事業分類
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					支援事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地の活性化策を講じるために必要な調査・研究、資料の作成を行う。 中心市街地活性化基本計画の進捗管理を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地の現状を把握とともに活性化に向けた検討を行い、推進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	4300	4400	4500	4600	4700
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行った主な活動内容)	実績なし	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		協議会開催回数	回数	0	0	0	
		事業費計	千円	0	0	0	
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	中心市街地の歩行者通行量（平日）は前年を下回る結果となる。しかし、同時期に行なった休日の歩行者通行量調査では、前年を上回る結果を得る。このことから、調査日（平日）に小雨が降ったことが影響しているものの、人の交流がさかんな商業地域となっていいるといえる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	5125	5675	4858	値が大きいほど良い 効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用 （R6とR5の指標値増減）	効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標		効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標		効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない		費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
なし

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課	人間国宝田村耕一陶芸館		7	新規or継続	継続事業
	係	天明鉛物まちづくり係	運営事業		1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例、佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例施行規則	H16	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化				その他市民に対する事業
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなか活性化ビル「佐野未来館」の1階にあり、年3回の企画展を開催し、人間国宝田村耕一の作品を展示・紹介している。あわせて、「まちの駅」「赤ちゃんの駅」としても観光情報を提供するなど中心市街地への回遊率の向上を図っている。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①人間国宝田村耕一氏とその作品に対する理解を深めてもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
	②人間国宝田村耕一氏の業績や作品の芸術性が分かりやすく紹介されている。静かな感動と癒しの場が提供されている。必要とされる中心市街地や本市の観光情報が提供されている。	入館者数（陶芸館総数）	回	1,308	1,540	1,788	2,029	
		まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	359	260	323	365	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	○企画展 ・田村耕一、鉄絵が「主役」になるまで（3/1～6/30） ・皿・鉢・陶板・展（7/5～11/10） ・茶陶展と暮らしの器（11/15～3/16）	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		企画展開催回数	回	3	3	3	
		事業費計	千円	707	914	827	
		一般財源	千円	673	892	789	
		特定財源（国・県・他）	千円	34	22	38	
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	入館者数は、コロナ前（平成28～30年度）は4000人を超えていたが、令和2年度に1,293人と減少し、その後は徐々に増えている。まちの駅・赤ちゃんの駅での入館者数は令和2年度の186人より増えたが、令和3～5年度は横這いの状況である。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		入館者数（陶芸館総数）	回	1,540	1,788	2,029	値が大きいほど良い 効果が上がった
		まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	260	323	365	値が大きいほど良い 効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	効果指標	単位	R4	R5	R6	
		入館者数（陶芸館総数）	回	1,540	1,788	2,029	値が大きいほど良い 効果が上がった
		まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	260	323	365	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		入館者数（陶芸館総数）	回	1,540	1,788	2,029	値が大きいほど良い 効果が上がった
		まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	260	323	365	値が大きいほど良い 効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

コロナ禍を経て入館者数が減少し、徐々に増えつつあるものの、コロナ前に比べると格段に減少した状況が続いているため、入館者数の増加が課題。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	引き続き、広報紙、マスコミ、インターネット、専門情報誌等を通じて積極的にPRを行い、関係機関にポスターの掲示やパンフレット配布の協力を依頼するなどを行い、入館者数の増加を図る。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課	人間国宝田村耕一陶芸館		7	新規or継続	継続事業	
	係	天明鉄物まちづくり係	運営委員会運営事業		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称		6	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		H16	実施方法	直営	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	人間国宝田村耕一陶芸館の円滑な運営を図るために、運営委員会を設置している。 陶芸館で開催する企画展の内容をはじめとする事業運営全般について、運営委員会で協議している。 委員は、学識経験者、関係機関・団体を代表する者及び市職員9名で構成されている。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①適正かつ円滑な運営が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
	②人間国宝田村耕一の業績や作品を広く紹介する展示内容が確保される。	管理運営上のクレーム件数	件	0	0	0	0	0
	③人間国宝田村耕一の業績や作品の芸術性の高さを知つもらう。							

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・運営委員会 令和6年7月2日開催 議題：開館20周年記念事業について 令和6年11月12日開催 議題：令和7年度企画展（案）について、令和7年度ポスター及びパンフレットの作成（案）について	活動指標	単位	R4	R5	R6		
	・企画展示部会 令和6年10月29日開催 議題：陶芸館運営委員会の提出議題について	運営委員会の開催回数	回	1	1	2		
		企画展示部会の開催回数	回	1	1	1		
		事業費計	千円	38	61	106		
		一般財源	千円	38	61	106		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	受付業務が業務委託になったが、受付の丁寧な対応ができているので、クレームは来ていない。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		管理運営上のクレーム件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数 1指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数 0指標				効果が下がった
	指標全体 効果は変わらない				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

運営委員の女性委員割合が低いため、委員改選時に検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
委員数を増やす必要性や予算を踏まえて委員改選時に新たな女性委員の登用が必要か検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野市民大茶会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課	佐野市民大茶会開催支援		款	2	新規or継続	継続事業
	係	天明鑄物まちづくり係	事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	佐野市補助金等交付規則、 佐野市民大茶会開催事業費補助金交付要綱	目	17	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H5	実施方法
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度		事業分類
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					支援事業
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地にあって、市民の憩いの場である万葉の里城山記念館で市民大茶会を開催し、茶道愛好者をはじめとする文化芸術に関心のある市民の交流の場として、まちなかの賑わいを創出する。 運営を担う市民大茶会実行委員会に補助金を支出し、活動を支援する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民に文化芸術に触れる機会を提供し、来場者を増やすことで、市街地での回遊を促すとともに、天明鑄物への関心を高める。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者数	人	158,529	166,659	182,153	191,670	170,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	佐野市民大茶会実行委員会開催（3回） 天明鑄物のふるさと佐野市民大茶会 10月27日（日）開催 来場者数 434人 席数 2席 ・薄茶席（和室） ・立礼席（多目的室）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議開催回数	回	3	3	3		
		来場者数	人	97	346	434		
		事業費計	千円	350	350	350		
		一般財源	千円	350	350	350		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	来場者数を増やし、市街地での回遊を促すとともに、天明鑄物を使用した茶会を開催することで、天明鑄物への関心を高める。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者数	人	166,659	182,153	191,670	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標		効果が上がった
	効果は変わらない指標数 0指標		効果は変わらない
	効果が下がった指標数 0指標		効果が下がった
	指標全体 効果が上がった		

費用	効果が下がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

前回より多くの茶券を販売することで、より多くの来場者が参加した。来場者を午前の部と午後の部に分散させることで、感染症対策及び駐車場不足の問題に対処した。次年度以降も引き続き同様の方法で安全安心な茶会運営と駐車場対策を工夫する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
まちなか活性化と市民が文化に触れる機会づくりとして今後も取り組んでいく。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野新都市バス事業連絡協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	佐野新都市バス事業連絡協		7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	議会支援事業		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	佐野新都市バス事業連絡協議会 設置要綱、 佐野新都市バス事業連絡協議会 運営要領	根拠法令、条例等	H14	実施方法	直営
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		期間 終了年度	-	事業分類	支援事業
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり					
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地と新都市を結ぶ佐野新都市バス事業を(株)関東自動車が実施するにあたり、関係機関が互いに連絡調整することにより事業の円滑な推進を図る協議会である。事務局として協議会の諸活動を行うとともに、負担金の支出等を通して支援を行う。佐野新都市バス事業連絡協議会組織 佐野市、(一社)佐野市観光協会、イオントレーラル(株)、三菱地所・サイモン(株)、(学)佐野日本大学学園
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野新都市線が安定して運営され、バスを利用した中心市街地と新都市間の移動が促進される。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		佐野市新都市線利用者数	千人	140	94	100	106	112
		1便平均乗車人数	人／便	15	16	17	18	19
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	【市の活動】 ・協議会の一員として佐野新都市バス事業連絡協議会に出席（11月） ・負担金の支出による支援 【支援した団体の活動】 佐野新都市バス事業連絡協議会（11月）開催し、運行継続の支援及び利用促進策を協議。 ・令和5年度運行事業に対する事業者の負担金決定・支出 ・運行時刻表作成（交通政策課）による利用促進	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		協議会の開催	回	1	2	1		
		事業費計	千円	100	100	100		
		一般財源	千円	100	100	100		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		佐野市新都市線利用者数	千人	100	83	71	値が大きいほど良い	効果が下がった
		1便平均乗車人数	人／便	17	14	12	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	2指標			効果が下がった
	指標全体	効果が下がった			○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数はコロナ禍前の状況に近づいているが、佐野新都市線は利用者数が減少傾向にあり、令和6年度以降も、赤字収支が見込まれる。令和5・6年度の学識経験者等からのアドバイスを基に、引き続き、市公共交通の認知度向上と利用促進を交通政策課等の関連部署と図っていく。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
令和7年度は、令和6年度で関係部署・団体と検討した利用促進策の実施に向けて、協議を進めていく。	

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計 予算 科目	一般	事業計画	単年度のみ
	課	産業政策課	佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業		7 新規or継続 款	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係	根拠法令、条例等		1 市単独or国県補助 項	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211 名称	佐野新都市バス事業連絡協議会	事業 期間	2 義務or任意 目	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	設置要綱、 佐野新都市バス事業連絡協議会		R6 開始年度	実施方法	直営
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり	運営要領	終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地と新都市を結ぶ佐野新都市バス事業を(株)関東自動車が実施するにあたり、佐野新都市バス事業連絡協議会組織メンバー(佐野市、(一社)佐野市観光協会、イオントリニティ(株)、三菱地所・サイモン(株)、(学)佐野日本大学学園)で負担金を支出し、運行支援を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	バス路線の継続により佐野新都市地区の来訪者を中心市街地に誘客する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		佐野市新都市線利用者数	千人	140	94	100	106	112
		1便平均乗車人数	人／便	15	16	17	18	19
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	【市の活動】 ・事務局として佐野新都市バス事業連絡協議会を開催（11月）し、運行継続の支援及び利用促進策を協議した。 ・令和5年度運行事業に対する事業者の負担金決定及び支出。 【支援した団体の活動】 中心市街地と佐野新都市を結ぶ路線バスの運行	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		車両台数及び運転士数	仕業	2	2	2		
		1日運行数（平日）	便	17	17	17		
		事業費計	千円	0	677	1,674		
		一般財源	千円	0	677	1,674		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0		
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		佐野市新都市線利用者数	千人	100	83	71	値が大きいほど良い	効果が下がった
		1便平均乗車人数	人／便	17	14	12	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果
		R4	R5	R6	
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	1指標 0指標 2指標 効果が下がった			効果が上がった 効果は変わらない 効果が下がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数はコロナ禍前の状況に近づいているが、佐野新都市線は利用者数が減少傾向にあり、令和6年度以降も、赤字収支が見込まれる。令和5・6年度の学識経験者等からのアドバイスを基に、引き続き、市公共交通の認知度向上と利用促進を交通政策課等の関連部署と図っていく。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
令和7年度は、令和6年度で関係部署・団体と検討した利用促進策の実施に向けて、協議を進めていく。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野駅前交流プラザ指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ 該当なし

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部産業政策課	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	佐野駅前交流プラザ指定管理事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称		目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市佐野駅前交流プラザ 条例		事業 期間	開始年度 H22	実施方法	指定管理者	
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化	佐野市佐野駅前交流プラザ 条例施行規則						
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	公共交通機関利用者の利便向上及び中心市街地の活性化を推進するため、民間企業による適切な管理運営を行う。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業に よって成し 遂げたい 状態)	本施設を活用し、中心市街地の賑わいの創出及び公共交通機関 利用者の利便性の向上を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地歩行者通行量（平日・5か所）	人	4300	4400	4500	4600	4700
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	施設は、1階が待合室及び観光案内所、2階が多目的ホールである。外には交流広場があり、多目的ホール及び交流広場は市民に貸し出しが行っている。指定管理者は、施設設備の維持管理を行うとともに、指定管理者として交流広場及び多目的ホールでまちなか活性化のための事業を実施している。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		施設利用者	人	40,494	49,822	65,339
		指定・自主事業実施回数	回	39	50	70
		事業費計	千円	31,421	32,955	37,748
		一般財源	千円	31,421	32,955	37,748
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	中心市街地の歩行者通行量（平日）は前年を下回る結果となる。しかし、同時期に行った休日の歩行者通行量調査では、前年を上回る結果を得る。このことから、調査日（平日）に小雨が降ったことが影響しているものの、人の交流がさかんな商業地域となっているといえる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		中心市街地歩行者通行量（平日・5か所）	人	5125	5675	4858	値が大きいほど良い 効果が下がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の 指標値増減)	費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断				効果 効果が上がった 効果は変わらない 効果が下がった
		効果が上がった指標数	1指標				
		効果は変わらない指標数	0指標				
		効果が下がった指標数	1指標				
		指標全体	効果は変わらない				

費用	費用が上がった	費用は変わらない	費用が下がった
	費用の増減無し		
	費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設設置より10年を超えたことにより、利用者が安全に利用していただけるよう指定管理者と修繕や改修について検討・実施する。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
指定管理者と連携を図り、修繕についての検討・実施する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野駅自由通路施設管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	都市計画課	佐野駅自由通路施設管理事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	計画係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	事業期間	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		開始年度	H15	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野駅自由通路の良好な維持管理を図る。 自由通路の清掃、エレベーター2基、エスカレーター1基、照明及び防犯カメラの適正な維持管理を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・施設を安全で快適な状態に維持する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設のトラブル件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	1 主要な取組	活動指標	単位	R4	R5	R6		
	(1) 佐野駅自由通路鉄骨部分(柱・梁)再塗装工事	清掃回数/日	回	1	1	1		
	①概要 供用開始後20年を経過し、鉄骨部分の劣化に対処するための再塗装工事 (9,878,000円)	エレベーター等保守点検回数/月	回	12	12	12		
	②工期：令和6年10月11日～令和7年2月28日							
	(2) その他修繕	事業費計	千円	6,712	6,658	17,379		
	・南口階段手摺修繕、電擊殺虫器タイマー設置 (R6.7)	一般財源	千円	6,712	6,658	17,379		
	・北口昇降機インターホン増設 (R6.12)	特定財源 (国・県・他)	千円	0	0	0		
	・自由通路構内防犯カメラ交換 (R7.3)	(うち受益者負担)	千円	0	0	0		
	2 施設管理 業務委託により、自由通路の清掃及びエレベーター2基・エスカレーター1基の保守管理を行った。							

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・自由通路におけるトラブル件数が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい	
		施設のトラブル件数	件	2	1	0	値が小さいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・自由通路鉄骨部分の内、鉄道線路敷内の再塗装工事が未着手であるため、令和7年度以降も鉄道事業者との協議継続が必要である。
・自由通路の管理移管を引き続き検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
(R7) 鉄道事業者（JR東日本高崎支社及び東武鉄道）に対し、市が積算した協議資料用の設計書を提出する。
(R8) 市提出の設計書をもとに鉄道事業者が独自設計を実施の上、負担額を提示。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市営駐車場維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	市営駐車場維持管理事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称		目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市駐車場条例、 佐野市駐車場条例 施行規則	事業 期間	開始年度	S53	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・中心市街地における道路交通の円滑化と、市民および観光客の商店街での買い物等の利便を図る。 ・この事業で維持管理する駐車場は、万町駐車場、田沼駅前駐車場、田沼角町駐車場、田沼仲町駐車場、葛生駅南駐車場及び葛生駅北駐車場である。 ・上記のうち、万町、田沼駅前は利用料金を徴収、それ以外は無料となっている。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	来訪者が中心市街地に車で来訪しやすくなる、また市民が中心市街地で買い物等がしやすくなるように、市営駐車場がいつでも快適に利用ができるように維持管理がなされている。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件			0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	万町駐車場、田沼駅前駐車場は機械による管理を行い、それ以外は無料での利用となっている。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		営業日数	日	365	365	365
		事業費計	千円	6,965	7,065	7,760
		一般財源	千円	2,205	1,686	2,195
		特定財源（国・県・他）	千円	4,760	5,379	5,565
		（うち受益者負担）	千円	4,760	5,379	5,565

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	適切な管理により苦情件数は0。引き続き円滑な管理を行う。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い 効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	費用は下がった	効果は変わらない	効果が下がった	費用の増減無し	費用が増加した
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が変わらない指標数	1指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果は変わらない					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

万町駐車場精算機の不具合があるので、令和7年度は機器入れ替えを行う。 駐車場の外灯が切れていることがあったので、月に1回程度夕方頃の見回り等を実施する。また、田沼駅前・仲町駐車場の公衆トイレの外壁等が古くなっているため、建築住宅課とともに確認・見積依頼する。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
精算機の入れ替えを行う。また、公衆トイレを建築住宅課とともに確認し改修予算を要望する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市民ギャラリー管理運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化推進課	市民ギャラリー管理運営事業		款	2	新規or継続	継続事業	
	係	天明鑄物まちづくり係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	佐野市市民ギャラリー条例	目	17	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間		開始年度	H 2 2	実施方法		
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり	終了年度			事業分類	直営		
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化				イベント等開催事業			
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなか活性化ビル「佐野未来館」2階に「市民ギャラリー」を設置し、市民が個人や団体で、作品の展示や音楽、演劇の発表や鑑賞の場を提供する。それにより、中心市街地における人の往来を増やし、活性化を図るとともに、市民が文化芸術に触れる機会の増加につなげる。 施設の管理運営、貸館のほか、音楽や工作等の主催事業を行う。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民が文化芸術に触れる機会の増加につなげる。施設来場者を増やすことで、中心市街地での人の交流を活性化させる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者	人	158,529	166,659	182,153	191,670	170,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	主催事業：やってみよう！鑄物づくり体験 7月27日(土) 12人 人間国宝田村耕一陶芸館開館 20周年記念子ども陶芸教室 8月18日(日) 33人 やってみよう！天明鑄物づくり体験（続） 8月20日(月) 5人 あなただけのハンカチを作ろう！マーブル染め体験 3月22日(土) 16人 合計66人 貸館事業：短歌会、文化協会パソコン部門文化祭等 利用日数61日、利用者数1,011人	活動指標	単位	R4	R5	R6
		主催事業の実施回数	回	2	3	4
		来館者	人	746	1,975	1,077
		施設申請利用者	人	27	53	58
		事業費計	千円	49	42	45
		一般財源	千円	49	42	45
		特定財源（国・県・他）	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	来館者を増やすことで、施設への関心を高める。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者	人	166,659	182,153	191,670	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R6とR5の指標値増減）	1指標
効果は変わらない指標数	0指標
効果が下がった指標数	0指標
指標全体	効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

今後も利用促進のため、主催事業によるPRを続ける。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
施設利用申請者や来場者の意見を聞き、それを反映させた取り組みで、施設への関心と利用率を向上させる。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか婚活推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	2-⑨	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	まちなか婚活推進事業 根拠法令、条例等 なし		款	7	新規or継続	継続事業	
政策体系	係	まちなか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
	体系コード	1211			目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業期間	開始年度	H28	実施方法	
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり			期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化						イベント等開催事業	
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	結婚を希望する独身男女の希望を叶えるため、中心市街地等において出会いの場を提供する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	婚活イベントをきっかけとして、参加者がまちなかに来訪する機会をつくる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		婚活によりまちなか来訪を促した数	人	0	20	30	36	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	どちらも後援のもと、婚活イベントを2回開催した。また、参加者全員に対し、まちなかの協力店舗で使えるクーポンを発行した。 ①令和6年9月23日（月祝） 合同会社Clarissへ業務委託 参加人数 26名（男性13人・女性13人） フレンドマッチング成立数 7組 ②令和7年1月18日（土） 合同会社Clarissへ業務委託 参加人数 20名（男性10人・女性10人） フレンドマッチング成立数 10組	活動指標	単位	R4	R5	R6
		業務委託発注回数	回	1	1	2
		事業費計	千円	792	1,000	990
		一般財源	千円	792	1,000	990
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	2回のイベントともにトラブル等なく、開催できた。 参加者に配布したクーポンにより、まちなか店舗等への誘客が促進できた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		婚活によりまちなか来訪を促した数	人	30	38	55	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
		1指標			
		0指標			
		0指標			
		効果が上がった			

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

まちなか活性化を目的とした婚活事業は令和6年度をもって終了。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	まちなか活性化を目的とした婚活事業は令和6年度をもって終了。		
	事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	事業効果を上げるための事務改善の検討	事業費の見直し検討

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか活性化ビル管理運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	産業政策課	まちなか活性化ビル管理運営	事業		款	7	新規or継続	継続事業
	まちなか活性化係				項目	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称		根拠法令、条例等	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業期間	開始年度	H 2 2	実施方法
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり				終了年度	-	事業分類
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化						施設維持管理事業
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかの賑わい創出及び情報発信の拠点施設として、各階の事業が適正に実施され、利用者が快適に過ごせるよう維持管理を行う。また、建物北側外壁に設置された電光掲示板や館内での情報掲示等により情報の発信を行う。 【各階利用状況】1階「人間国宝田村耕一陶芸館」、2階「市民ギャラリー」、3階「チャレンジショップ」
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	施設管理上の瑕疵による事件事故の防止及び各階の事業の適正実施を推進する。また、施設全体の利用者を増加させる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設管理上の瑕疵による事件事故の発生件数	件	0	0	0	0	0
	まちなか活性化ビル利用者	人	5800	5900	6000	7000	8000	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・必要な業務委託の発注とその検査 【主な委託業務】受付等業務、清掃業務、機械警備業務 等	活動指標	単位	R4	R5	R6
	修繕・工事・設備購入発注件数	件	11	9	9	
	電光掲示板掲示回数	回	7	8	8	
	事業費計	千円	25	25	35	
	一般財源	千円	18,606	15,368	16,711	
	特定財源（国・県・他）	千円	18,468	15,250	16,566	
	（うち受益者負担）	千円	138	118	145	

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	おおむね事件や事故等なく施設を利用してもらうことができ、各階の事業の実施に貢献できた。 地絡停電事故が発生したが、けが人やトラブル等も発生せず、早急に復旧することができた。 電光掲示板や館内でのポスター掲示等を通して、情報発信を行うことができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		施設管理上の瑕疵による事件事故の発生件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い 効果は変わらない
		まちなか活性化ビル利用者	人	6,189	6,860	7,806	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数 1指標				
	効果が下がった指標数 0指標				
指標全体	効果が上がった		費用は下がった		
			費用の増減無し		
			費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

設備の老朽化等に伴い空調設備や給排水設備、電気設備の突発的な不具合がほぼ毎年発生している状況で、職員の現場対応や想定外の事務が発生している。そのため、安全面や各階の事業の継続性等のリスク、経年劣化等による不具合発生の可能性等を総合的に判断して、修繕や改修の実施を検討・実施する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
技術センターや専門業者等の意見を聞きながら、必要な修繕等は先回りして実施する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなか活性化支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	産業政策課	まちなか活性化支援事業			款	7	新規or継続	継続事業
	まちなか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	佐野市まちなか活性化事業補助金 交付要綱	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業期間	開始年度	H19	実施方法
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり				終了年度	-	事業分類
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化						支援事業
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地及び田沼・葛生の地域市街地エリアを活性化させるため、対象区域内の空き店舗等（空き家含む）を活用して出店する事業者へ、店舗の改装費用と家賃に対して補助金を交付する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	低未利用の空き店舗等が減り、まちなか来訪の目的となる店舗が増え、まちなかへの来訪者数が増える。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地空店舗活用件数	件	55	60	65	70	75
		地域市街地空店舗活用件数	件	2	4	6	8	10
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	【市の活動】 空き店舗等を活用する事業者に家賃・店舗改装費に要した経費への補助金を支出するための手続きを行うとともに、相談業務を実施した。また、不動産事業者や創業希望者等に対しての補助金の周知活動や補助金活用者に対してのまちなか情報の提供等を行った。 【支援した団体・個人の活動】 まちなかでの空き店舗を活用して、飲食業や小売業等のまちなかに来訪者を増やす事業を展開した。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		相談件数	件	40	40	32
		交付決定件数	件	10	19	26
		事業費計	千円	4,231	9,957	10,602
		一般財源	千円	1,231	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	3,000	9,957	10,602
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	創業希望者等がまちなかでの出店を選択し、空き店舗等が活用された。また、出店者に対してまちなかに関係するイベント情報を提供し、連携を呼びかけることで、店舗への来店者増加とまちなか活性化を結び付けた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		中心市街地空店舗活用件数	件	67	78	86	値が大きいほど良い 効果が上がった
		地域市街地空店舗活用件数	件	2	3	5	値が大きいほど良い 効果が上がった
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果			↓選択して下さい
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
	効果は変わらない指標数		費用は下がった			
	効果が下がった指標数		費用の増減無し	○		
効果 (R6とR5の 指標値増減)	指標全体	効果が上がった	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

創業希望者の増加や補助対象区域の拡大等により補助金利用者が増加している。既存の貸し店舗以外の遊休不動産の活用推進が課題。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちなかにぎわい空間維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	まちなかにぎわい空間維持管		7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	理事業		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等 佐野市中心市街地活性化広場条例、佐野市中心市街地活性化広場条例施行規則	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		H30	実施方法	一部委託	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかにおけるイベントの開催や市民の憩いの場として提供するため、適切に維持管理を行う。 災害時に活用できる設備（かまどやトイレ）の維持管理を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	当該施設を活用し、中心市街地の賑わいの創出及び市民の交流を促進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		中心市街地歩行者通行量（平日・5日）	人	4,300	4,400	4,500	4,600	4,700

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況 特になし 目視による点検の実施（直営・随時） ポイ捨てごみや張り紙の撤去（直営・随時） 植栽の剪定や除草作業（業務委託） 災害時に活用できる設備や物品の点検（直営） 防災士会に防災かまど等の情報提供を行った。 	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		施設を利用したイベント数	回	0	1	0	
		業務委託発注回数	回	1	1	1	
		事業費計	千円	85	58	58	
		一般財源	千円	85	58	58	
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	維持管理を適切に行うことによって、市民の憩いの場を提供できた。 防災士に、施設の存在や防災機能を知つてもらうことができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		中心市街地歩行者通行量（平日・5日）	人	5,125	5,675	4,858	値が大きいほど良い 効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	1指標				○
	指標全体	効果が下がった				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
隨時業務改善を行いながら、引き続き適切な維持管理を行う。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	栃木県まちなか元気会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	まちなかにぎわい空間維持管		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	理事事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	栃木県まちなか元気会議規約	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H 1 1	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	参画事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進することを目的として、調査研究や普及啓発活動、相互の情報交換等の取組を進めている「栃木県まちなか元気会議」に参画する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	当該会議の先進地視察や情報収集で得た知識を活かし、本市の中心市街地活性化の取組みの企画立案や既存業務の改善を行い、中心市街地の活性化を推進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	150	140	150	160	170

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	【市の活動】 ・負担金5万円の支出 ・総会、幹事会、担当者会議への出席 ・講演会、先進地視察、研修会への参加 【参画している団体の活動】 ・総会、幹事会、担当者会議の開催 ・講演会、先進地視察、研修会の開催	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議出席回数	回	2	3	2		
		研修会出席回数	回	3	4	2		
		事業費計	千円	50	50	50		
		一般財源	千円	50	50	50		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	本市の中心市街地活性化に関する知識を得ることができ、隨時その知識を活かして関係する事務事業を進めることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明 (定量及び定性)	本市の中心市街地活性化に関する知識を得ることができ、隨時その知識を活かして関係する事務事業を進めることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断						
		効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	値が大きいほど良い	効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	取組説明		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）			引続き団体参画を通して情報収集を行う。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市道佐野57号線道路改良事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	道路河川課	市道佐野57号線		款	8	新規or継続	継続事業
	係	道路建設係	道路改良事業		項	2	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	1211	名称	道路法、道路構造令	目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	根拠法令、条例等		事業期間	開始年度	H30	実施方法
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり			期間	終了年度	R6	事業分類
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化						施設等整備事業
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本路線は、中心市街地道路整備基本計画に位置付けられており、土地利用や防災上の観点から、駅前の賑わい空間や本庁舎への円滑なアクセスを目的として整備を進めていく。（全体事業 工事延長 L=70m、道路幅員 W=12.0m、歩道幅員 W=2.5m（両側））
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・歩行者、自転車利用者の安全確保を図る。 ・通過車両の円滑な通行を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		整備率（事業費ベース）	%		55.6	100.0		

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	【令和6年度】 ・道路改良工事 L=71.7m（令和5年度の繰越）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		工事延長	m	0	0	72		
		用地買収	m ²	131	82	0		
		物件補償	件	1	5	0		
		事業費計	千円	10,593	21,203	29,368		
		一般財源	千円	1,884	6,516	12,167		
		特定財源（国・県・他）	千円	8,709	14,687	17,201		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・整備が完了した区間において、歩行者、自転車利用者の安全が確保され、また、通過車両の円滑な通行を図れた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		整備率（事業費ベース）	%	38.5	60.1	100.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	R5とR6の比較
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・令和6年度 事業完了

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
・令和6年度 事業完了

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市民広場駐車場活用促進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	総合政策部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ		
	課	財産活用課	市民広場駐車場活用促進		款	6	新規or継続	新規事業		
	係	施設管理係	事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業		
政策体系	体系コード	1211	名称		目	2	義務or任意	任意的事業		
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業期間	開始年度	R6	実施方法	直営	
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり			期間	終了年度	R6	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化								
	基本事業	1 中心市街地の賑わいの創出								

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	市役所利用者に支障のない適正な駐車場の運用を行うため、一定時間以降を有料化し、利用者の公平性を確保するとともに、休日・夜間等、無料開放している市民広場駐車場における目的外や長時間の利用を抑制し、市有財産の有効活用を図りながら、税外収入の確保につなげる。また、市議会議員や周辺飲食店からの要望に応え、平日夜間(22:00~8:15)閉鎖している市民広場駐車場を終日利用可とすることで中心市街地の活性化に寄与する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・有料ゲート設置	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		使用料	円				500,000	2,400,000
		利用台数	台				200,000	210,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	市民広場駐車場に有料ゲートを設置 ・条例改正により、使用料を設定 ・1/6より、有料ゲートの	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		有料ゲート設置	式			1	
		事業費計	千円	0	0	3,760	
		一般財源	千円			3,420	
		特定財源（国・県・他）	千円			340	
		(うち受益者負担)	千円			340	

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・税外収入の確保 ・市民広場駐車場を終日利用可とすることで中心市街地の活性化に寄与	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		使用料	円		0	600,308	値が大きいほど良い効果が上がった
		利用台数	台	196743	199,468		値が大きいほど良い効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・ゲートが付いたことにより、駐車場の管理方法を見直しが必要となり、今後、状況を見て適宜変更する必要がある。
・ゲートを設置したが、満車時の対応、駐車券の紛失など、人による管理が必要である。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> □ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 □ 事業費の見直し検討 □ 業務時間効率化のための事務改善の検討 □ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） <p>・ゲートが付いたことにより、駐車場の管理方法を見直しが必要となり、今後、状況を見て適宜変更する必要がある。</p> <p>・ゲートを設置したが、満車時の対応、駐車券の紛失など、人による管理が必要である。</p>

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	駅南公園西地区画整理事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般会計	事業計画	期間限定複数年度
	課	都市整備課	駅南公園西地区画整理事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	市街地整備係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	1211	名称	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		開始年度	H29	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	R10	事業分類	施設等整備事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	市道佐野57号線の拡幅整備にあたり、防災面や土地利用、中心市街地活性化等の観点から、一部区間について土地区画整理事業により整備する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	道路等公共施設整備により利便性・防災性が向上することにより、土地利用価値の増進を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		土地の使用収益率（累計）	%	21.4	33.4	38.6	55.6	57.8
		道路工事進捗率（累計）	%	0.0	9.4	18.2	18.2	39.4

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・物件移転補償 建物1棟 ・区画道路築造工事 ・直接施行実施計画業務委託 	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		工事発注金額	千円	7,227	4,187	5,753		
		業務委託発注金額	千円	2,266	19,041	8,690		
		事業費計	千円	72,277	55,816	84,608		
		一般財源	千円	9,446	24,221	15,208		
		特定財源（国・県・他）	千円	62,831	31,595	69,400		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	物件移転が遅れている影響により、土地の使用収益も道路工事も遅延していることから、令和6年度の土地の使用収益率及び道路工事進捗率の増加は微増にとどまった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		土地の使用収益率（累計）	%	33.4	38.6	39.9	値が大きいほど良い	効果が上がった
		道路工事進捗率（累計）	%	5.1	8.0	13.1	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断				効果		
効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標				効果が上がった ○ 費用の増減無し 費用が増加した		
	効果は変わらない指標数	0指標						
	効果が下がった指標数	0指標						
	指標全体	効果が上がった						

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

相続問題により物件移転が進まなく事業が遅延していることから区画整理法第77条による直接施行実施の検討を行った。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
区画整理法第77条による直接施行の実施に向け事業を進めていく。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	くずう原人まつり支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	くずう原人まつり支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称	くずう原人まつり事業費補助金交付要領	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	S63	実施方法	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					支援事業	
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	むらおこし実行委員会（佐野市あそ商工会、市、各団体、市内事業者で構成）が主催する「くずう原人まつり」の活動を支援する事業である。嘉多山公園を会場として、8月第4土曜日に開催（令和4年度からは9月下旬に開催）。原人ステージでの地元小中高校生などによる吹奏楽等をはじめ、古代体験イベント、朝市会売店、ふれあい動物園などを実施。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	むらおこし実行委員会に対して財政支援及び広報支援を行うことで、まつり内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		くずう原人まつり来場者数	人	0	10,000	15,500	16,000	16,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	令和6年度は、9月21日（土）・22日（日）に開催され、各種ステージや体験イベント等を行った。 市としては、実行委員会に補助金2,500千円を支出。広報さの記事掲載、広報さの9月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		広報さの記事掲載回数	回	1	1	1		
		事業費計	千円	2,500	2,500	2,500		
		一般財源	千円	2,500	2,500	2,500		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		くずう原人まつり来場者数	人	13,000	16,000	15,000	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断					効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標					効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標					効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標					効果が下がった
	指標全体	効果が下がった					
			費用は下がった	効果は変わらない	効果が下がった		
			費用の増減無し			○	
			費用が増加した				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

くずう原人まつりの広報周知・財政支援を継続する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	たぬまふるさと祭り支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	たぬまふるさと祭り支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称	たぬまふるさと祭り支援事業費 補助金交付要領	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	S51	実施方法	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					支援事業	
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	たぬまふるさと祭り実行委員会（佐野市あそ商工会が事務局）が主催する「たぬまふるさと祭り」の活動を支援する事業である。平成25年度までは田沼中央公園を、平成26・27年度は田沼庁舎と市民病院の間の市道を歩行者天国にして会場とし、平成28年度には田沼庁舎駐車場を会場としてきた。令和4年度以降は、佐野市国際クリケット場にて10月下旬開催された。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	たぬまふるさと祭り実行委員会に対し財政支援や広報支援を行うことで、祭り内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	0	20,000	20,500	21,000	21,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	令和6年度は、10月27日（日）にクリケット国際大会と同時開催された。実行委員会に補助金1,700千円を支出し、広報さの10月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		広報さの記事掲載回数	回	1	1	1
		事業費計	千円	1,220	1,700	1,700
		一般財源	千円	1,220	1,700	1,700

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	18,000	15,000	17,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	18,000	15,000	17,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

たぬまふるさと祭りの周知・広報活動・財政支援の継続

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	初午祭交通安全対策支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	初午祭交通安全対策支援		7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係	事業		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		S51	実施方法	直営	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり	初午祭交通安全実行委員会交付金交付要領	終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	旧暦2月の初午に近い金・土・日曜日に開催される初午祭りを安全に行うため、田沼初午祭交通安全実行委員会（佐野市あそ商工会、一瓶塚稻荷神社、周辺町会、商店街、佐野警察署などで構成）の活動を支援する。本実行委員会は、初午祭の開催について、広報活動や当日の交通整理等を行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	田沼初午祭交通安全実行委員会に交付金を交付することで、初午祭の無事故の運営が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		初午祭来場者数	人	54000	54500	55000	55500	56000
		会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	令和6年度は、交通規制を伴って初午祭が実施されたことから、300千円の交付金を支出した。また、例年は金・土・日の3日間で開催されているが、令和6年度は土・日の2日間のみの開催となった。	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		交付金支出回数	回	1	1	1	
		事業費計	千円	0	300	300	
		一般財源	千円	0	300	300	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	2日間のみの開催であったため来場者数が減少したが、目標値を達成した。 また、初午祭が事故なく運営できた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		初午祭来場者数	人	0	66310	60000	値が大きいほど良い 効果が下がった
		会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い 効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果が下がった				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

初午祭交通安全実行委員会が行う交通規制の案内周知、財政支援を継続する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	壱番館公衆トイレ維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	産業政策課	壱番館公衆トイレ維持管理	事業		7 新規or継続	7	新規or継続	継続事業
	産業政策係				1 市単独or国県補助	1	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称		2 義務or任意	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1 魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			事業期間	開始年度	平成14年度	実施方法
	政策	2 地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	直営
	施策	1 中心市街地及び地域市街地の活性化						施設維持管理事業
	基本事業	2 地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・地域市街地の活性化の拠点施設として設置された葛の里壱番館の公衆トイレ（葛の里壱番館東側）の維持管理を行う事業である。 ・維持管理は、まちづくり葛生(株)に委託して維持管理を行う。 ・トイレ周辺の立木の害虫駆除、剪定なども行う
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	来訪者(市民・観光客等)がいつでも快適に公衆トイレを利用するこ とができるように維持管理を行う。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		地域市街地(葛生)における定住人口	人	1963	1951	1940	1928	
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・公衆トイレの維持管理をまちづくり葛生(株)に委託した。 ・ポケットパーク南側の生垣の剪定を実施した。(7月) ・公衆トイレの水漏れ修繕を行った。(2月)	活動指標	単位	R4	R5	R6
		トイレ清掃作業の延べ日数	日	365	365	366
		周辺立木の害虫駆除等回数	回	1	1	1
		事業費計	千円	1,014	1,116	1,132
		一般財源	千円	1,014	1,116	1,132
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	適切に維持管理を行い、来訪者に快適に施設を利用してもらえた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		地域市街地(葛生)における定住人口	人	1,868	1,809	1,760	値が大きいほど良い 効果が下がった
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い 効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 0指標				効果が上がった 効果は変わらない 効果が下がった
	効果は変わらない指標数 1指標				
	効果が下がった指標数 1指標				
	指標全体 効果が下がった				

費用	効果が上がった 費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した	効果は変わらない 効果は変わらない 効果が下がった ○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

公衆トイレの水漏れ箇所を発見し、早急に修繕を行ったことで、施設維持管理上の苦情は発生しなかった。今後も、来訪者の方に快適に利用していただけるよう、適切に管理を行ってください。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生街路灯維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課	葛生街路灯維持管理事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称	事業 期間	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		開始年度	平成7年度	実施方法	直営	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・原人口ド街路灯（28基）の電気料金は、市70%、町会30%の負担割合で、町会の負担分は町会が年2回（上半期分と下半期分）に分けて市に納入する。 ・街路灯の撤去は葛生町街路灯維持管理委員会が平成27年度と平成28年度の2カ年かけて行い、撤去費用の50%を市補助金として平成27年度と平成28年度に支出（撤去費用の負担割合は市50%、葛生町街路灯維持管理委員会20%、町会30%）。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生地区内街路灯の適切な維持管理を行い、市民・来訪者が安全・快適に生活、事業活動を行うことができる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設維持管理上の苦情件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・原人口ド街路灯(28基)の電気料金及び一般街路灯(従来より市の管理3基)の電気料金、街路灯31基の施設所有(管理)者賠償責任保険料を支出。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		人口	人	116,982	115,700	114,241
		街路灯設置数	基	31	31	31
		事業費計	千円	697	698	700
		一般財源	千円	538	535	496
		特定財源（国・県・他）	千円	159	163	204
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	適切に維持管理を行い、地域住民の安全な通行に寄与することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		施設維持管理上の苦情件数	件	1	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R6とR5の指標値増減）	0指標
効果は変わらない指標数	1指標
効果が下がった指標数	0指標
指標全体	効果は変わらない

*10万円以上の増減により判断

効果			
費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・令和6年度に関しては、施設維持管理上の苦情はなかった。
・旧葛生町において、平成6年に老朽化した街路灯を全て設置し、その管理運営を行うため、平成7年2月に葛生町街路灯管理委員会を設置し、同委員会に対して、旧葛生町で電気料の補助を実施した。その後、平成23年2月、補助金等交付検討委員会から、「(他地区では街路灯の補助は実施していないため)他地区との整合性を考えた上で、防犯灯に対する補助との関連を整理すべきである。」との提言を受けた。
・今後、電気料金の負担や環境負荷を考え、財産活用課主体でLED化工事を予定している。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	地域市街地活性化推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-①	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ 該当なし

1. 基本情報

担当組織 課 係	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目 地 域 市 街 地 活 性 化 推 進 事 業 根拠法令、条例等	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し 新規or継続
	課	産業政策課	款		7	新規or継続	継続事業	
	係	まちなか活性化係	項		1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1212	名称		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	R4	実施方法
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					その他市民に対する事業
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）の活性化策を講じるために必要な調査、研究及び資料を作成する。地域市街地活性化のにぎわいを創出するため、「まちなか地域おこし協力隊員」を設置する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	低未利用な空き物件や空き地を減らし、人流・店舗を増やす。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		地域市街地歩行者通行量（平日・2カ所）	人	750	800	850	900	950
		地域市街地空き店舗活用件数（累計）	件	2	2	3	4	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	【調査実施】 歩行者通行量調査、空き店舗調査、宇都宮大学学生との現地聞き取り調査、空き店舗所有者等への聞き取り調査 【地域おこし協力隊員の委嘱】 ・報償費や活動経費の支給 ・活動の支援（イベント企画7回他） 【関係団体等との連携した取組み】 ・宇都宮大学「地域プロジェクト演習」による学生との協働 ・あそ商工会とのイベント連携や地域情報の共有	活動指標	単位	R4	R5	R6
		調査実施数	件	3	4	4
		地域おこし協力隊員の数	人	1	1	1
		関係団体等との連携した取組数	件	2	2	2
		事業費計	千円	139	4,122	5,248
		一般財源	千円	139	4,122	5,248
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	各種調査や取組みを進める中で、直接かかわりを持った者や情報 発信を行った対象者などに対して、当該地域について考える機会を 提供することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		地域市街地歩行者通行量（平日・2カ所）	人	890	1,067	877	値が大きいほど良い 効果が下がった
		地域市街地空き店舗活用件数（累計）	件	2	3	5	値が大きいほど良い 効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明 (定量及び 定性)	各種調査や取組みを進める中で、直接かかわりを持った者や情報 発信を行った対象者などに対して、当該地域について考える機会を 提供することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		地域市街地歩行者通行量（平日・2カ所）	人	890	1,067	877	値が大きいほど良い 効果が下がった
		地域市街地空き店舗活用件数（累計）	件	2	3	5	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	1指標 0指標 1指標 効果は変わらない				
			費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

田沼地域での宇都宮大学との連携事業は令和6年度で終了。新たに葛生地域での連携事業が始まる。 地域おこし協力隊員は令和6年度末で退任となり、令和7年度当初は不在となる。ミッションの深掘りを行った上で、協力隊員として適性のある人物の採用を行う必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	民間主導で地域の活性化が推進されるよう、関係者を巻き込みながら必要とされる場づくりや仕組みづくりを行う。地元高校や大学と連携し、地域課題の調査や活性化の取組みを実施する。地域おこし協力隊については、知見のある事業者の支援を受けながら、12月着任を目標に採用活動を行う。
事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） 事業効果を上げるための事務改善の検討 事業費の見直し検討 業務時間効率化のための事務改善の検討 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	